１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２０年７月３１日

【評価実施概要】

事業所番号	4572000687
法人名	特定非営利活動法人 敬愛
事業所名	グループホームなごやか
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町上江１９４０－２ （電　話）0983-23-4457

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町２番２２号		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年7月31日

【情報提供票より】（平成２０年５月１５日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成１６年９月７日	
ユニット数	１ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9 人	常勤５人，　非常勤４人，　常勤換算７．６人

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	1 階建ての　～1　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	22,000　円		その他の経費（月額）	実費　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　900　円			

（４）利用者の概要（平成２０年５月１５日現在　）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護１	5	要介護２	3		
要介護３	0	要介護４	1		
要介護５	0	要支援２	0		
年齢	平均　86.5 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	坂田病院、内田医院、川南病院、江藤歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅街にあり、地域との交流が図れる環境にある。開所して４年目を迎え、ホームとして地域に何が貢献できるかを考え、町内で「笑って元気になれる介護教室」の講演会を予定している。　年々、利用者の年齢も高くなり、また、身体状況も変化する中、利用者が生き生きと活躍する場面が少なくなることに直面し苦悩することが多いが、その人らしい生活ができるよう質の向上に努力している。食事は利用者に応じた形態にしてあり、彩りや食べやすさにも配慮され、食欲をそそる工夫がなされており、利用者が食事を楽しみにしている様子がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価での改善課題として、災害対策については、防災訓練やマニュアルの作成はまだ取り組めていない現状である。相談・苦情の公的窓口の紹介については、口頭にて説明はなされているものの、書面上での説明までは至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目；外部４）
	自己評価は全職員が個々に取り組み、その後全職員間で検討を行い、改善に向けての話し合いがなされている。特に、今年度は事業所内勉強会への取り組みや、利用者の外出支援に対し改善に向けて取り組んでいく予定である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	地区の代表者や家族が参加して、２か月ごとに運営推進会議を開催し、月間行事や利用者に対してケアの状況説明を行っている。運営推進会議で出された外出の支援の要望に対しては、すぐに全職員で改善に向けての検討を行い、サービスの向上に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	定期的なホーム便りはないが、行事の後や利用者の様子が記載され家族に報告されている。家族会は発足しているが、昨年より開催はなされていない。ホームのサービスの向上や運営状況説明のためにも今後取り組んでいく予定である。不満、苦情を外部に相談できるような情報提供、書類整備を行う予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入しており近隣の方との交流はある。近隣の方から庭木のせんていや地区主催の盆踊りのお誘いがあるなど良い関係が得られている。地域のボランティアの定期的な訪問があり、利用者は、踊り、歌、本の読み聞かせなど楽しみにしている。開所して４年を迎え、地域の貢献として高鍋町内で、「笑って元気になれる介護教室」の講演会を予定している。

２．　評　価　結　果　（詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	１０項目の理念を掲げ、住み慣れた地域で安心した暮らしができることを目標に作っている。一つひとつの項目は分かりやすく、すぐケアに実践できる内容である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念が日々のケアの実践に生かされるよう、毎月のミーティング等で働きかけているが、職員全てが共有できている状況ではない。	○	日々のサービス提供の場面において、理念が反映できるように、全職員で更に取り組みを期待したい。今回の自己評価の機会が、理念を見つめなおすきっかけにして欲しい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、近隣との交流があり、庭木のせんていや地区主催の盆踊りへのお誘いなど良い関係が得られている。開設して４年を迎え、地域への貢献として高鍋町内で、「笑って元気になれる介護教室」の講演会を計画している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が取り組み、その後職員間で検討を行い、改善に向けて話し合いがなされている。特に、今年度は事業所内勉強会への取り組みや、利用者の外出の支援に対し改善に向けて取り組んでいく予定である。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の代表者や家族が参加して、２か月ごとに運営推進会議を開催している。会議の中では、月間行事や利用者に対してのケアの状況説明等を行っている。運営推進会議で出された要望に対しては、すぐに取り組みサービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携は、以前はホームの報告等にとどまっていたが、最近は情報の共有が図られ、市町村担当者からの助言や支援が得られるようになってきている。４周年感謝祭を記念しての講演会も、町広報誌に掲載しPRしてもらっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なホーム便りはないが、行事の後や利用者の様子を記載し家族に報告している。家族の訪問の際は、利用者の暮らしぶりなどを詳しく報告している。緊急時や足が遠のいている家族には、電話で常に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は発足しているが、昨年より家族会の開催がなされていない。また、不満、苦情を外部に相談できるような情報提供が、昨年に引き続きできていない。家族の訪問時は、意見が出しやすいような雰囲気作りに努めている。	○	家族会の開催をこの機会に定例化し、家族の意見が運営に反映できることをお願いしたい。また、重要事項説明書等で苦情や意見が言える外部機関の情報を提供してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に関しては、家族が訪問した際に説明している。利用者に極力ダメージを与えないように、各職員が利用者との関係作りに気を配っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加が少ないため、職員の質の向上にはなかなかつながりにくい状況である。ホーム内研修は、昨年まで行っていたが、継続性がなく現在は途切れている状況である。ホーム側も今年度は、定期的にホーム内研修を組み込む予定である。	○	職員の経験年数・得意分野・職務内容等を加味し、各職員のスキルアップを意識した研修計画をたて、働きながらトレーニングできる機会を充実してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、管理者の同業者の交流は、図られている。職員は、地域別のブロック別研修に参加しているが、定期的ではない。管理者は、職員の質の向上やサービス向上のため、町外のホームとの交流や情報交換を図り、できることから勧めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・利用者の見学や宿泊体験を行い、利用者のダメージを少なくしている。また、職員が自宅訪問しなじみの関係作りにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が生き生きと活躍する場面を大切にし、利用者と共に喜びまた、職員全員で喜ぶことを心がけている。利用者との会話の中で、昔のことや生活の工夫を学ぶ場面作りをしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の支援・介護は担当制になっているため、会話や生活の様子観察から、利用者が何を求めているのか考える努力をしている。利用者の思いの把握が困難な場合は、家族や利用者から聞き取った生活歴を基に、さらに職員間で検討し合っている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者やその家族と話し合いを持ち、担当の職員等とケアの内容を検討し、介護計画を作成している。家族には、介護計画に基づいた暮らしぶりや日ごろできることを報告している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成者は、モニタリングを、１か月に１回実施し、３か月に１回は見直しを行い介護計画を作成している。定期的に行っているものの、現状に即した介護計画を全職員が把握できていないのが現状である。そのため十分なアセスメントが取りにくい状況にある。	○	介護計画に沿ったケア後の結果・評価とその後の検討は連動している。ケアを提供する職員が現状に即した介護計画を把握することで、利用者の状況変化に気づき、生活支援や健康管理がしやすくなると思われる。是非、職員と共にこの一連の作業を行い、共有のものとしていただきたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	数か月前までは、利用者の要望に応じた支援が十分できていなかった。この現状改善のため、職員間で検討し、現在では通院や自宅訪問、ドライブと利用者ごとに応じた支援を徐々にではあるが提供している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じた掛かりつけ医から協力をいただいている。家族が、通院支援する場合は、情報提供書を記入し、家族、ホーム、病院の連携が図れるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の段階では、人的な問題や他の利用者への心理的影響などを考え、重度化や終末期へのケアの提供は難しい。家族への説明も随時行っている。	○	現段階では、重度化や終末期に向けた支援は難しいが、全職員で機会あるごとにいろいろなケースを想定し今後も検討を重ねていただきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関しては、言葉かけや利用者に対しての態度、記録等の管理など適切に指導されている。訪問調査時も職員は穏やかで教育がなされていると感じた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課に沿いケアを提供している。その中で、利用者の言葉や行動から、できるだけ思いに寄りそった支援ができるよう努力している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と共に食事をとり支援している。利用者は、毎日の食事を特に楽しみにしていることがうかがえた。利用者の力量に応じた調理作業を一緒に行っている。テーブル拭き、下膳、お盆拭き又季節によっては、つわの皮むき、竹の皮はぎ等楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週３回の支援を行っている。希望があればその時々で入浴できる体制にはあるが、利用者からの希望は少ない現状にある。利用者がもっと入浴を楽しめる体制を整え、支援にしていきたいという意見が得られた。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外部からのボランティアによる踊りや歌、本の読み聞かせが毎月行われ、楽しみにされている。日常生活の中では、掃除や洗濯物たたみ、畑の野菜収穫や草むしりと利用者に応じた役割があり、それぞれ力を発揮する場面がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	５月の運営推進会議で家族から外出の支援を多くして欲しいと意見が聞かれたことと、今回の自己評価に取り組み外出の支援のあり方を検討した結果、今年度特に力を入れて取り組む項目にしている。	○	数年前に実施されていた、担当職員が利用者ごとの希望や思いをくみ取った外出の計画等を、再度取り組まれてはどうだろうか。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践している。そのため、職員は利用者の動きや言動に気を配っている。職員は、鍵を掛けることの弊害は十分理解している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害が発生した時は、民生委員の協力が得られる体制になっている。災害時の備蓄や避難訓練等は行われていない。	○	訓練を実施することで、ホームの構造上の避難経路の把握、避難誘導の方法が学べまた、夜間勤務の職員の不安解消にもつながる。火災時の避難訓練は、是非実施していただきたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量に関しても把握しており、状態の変化に対応できるようにしている。利用者に応じた食事形態にしてあり、彩りや食べやすさにも配慮され、食欲をそそる工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くとってあり開放的であった。トイレは３か所設けてあり、利用者が負担なく移動できる位置に配置されていた。室内は清潔で、衛生管理も十分行われていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族へ持ち込みをお願いし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。部屋によっては、お位牌や専用椅子、化粧道具等が準備され、居心地よく過ごせる工夫がされている。		

※ ▒ は、重点項目。